監禁恋愛

三月兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
監禁恋愛

【Ｎコード】
Ｎ２８７２Ｊ

【作者名】
三月兎

【あらすじ】
夜の街を散歩するのが趣味で、不幸にも追っかけ（ストーカー）の付いてしまった青年。
青年に恋をしたロリ（本人は否定）な少女。
純愛にはほど遠い三食常寝付きの新しい生活（監禁ともいう）
果たして彼の運命や如何に！？

最近のストーカーってこんなもんなのか？（前書き）

この作品は作者の文才の関係上、凄まじく下らないです。
それでも『文才なんて関係ない！何かを書くことに意味があるんだ！』
なんてカッコイイこと言ってくれる方は、後悔することを胸に刻んでおいてから見てやってください。

最近のストーカーってこんなもんなのか？

暗い夜道。

時刻は既に、午前二時を三十分も回っている。

頼りになる灯りは、チカチカと点滅する街灯しかない。

あと五時間もすれば、早くから登校する学生達や、仕事に向かうサラリーマンやらで、ガヤガヤと忙しなく行き交い始めるのだろうが、今はそんな騒音はまるで聞こえない。

聞こえるのは自分の足音と、街灯に群がる小さな虫の羽音、

それに――――

いつもの様に自分の背後から微かに聞こえている足音のみだ。

そう……

俺がこんな真夜中に散歩をするのは、いつもの事なのだ。

特に理由という理由はないのだが、なんだか眠れないので暇潰しに散歩しているだけだ。

後ろからの足音に気付いたのは、今日だったか、昨日だったか、はたまた何ヶ月も前だったか……

兎に角いつの間にかだったのは確かだと思う。
特に意味もなく夜道を散歩していたら、特に意識するでもなく偶然足音が聞こえてしまった。

その程度だった。

というか、そんなの所詮は過去の事だ。
少なくとも人間である以上、いくら過去の事を考えたって戻れるわけではないというのは、とりあえず人間である自分が一番よくわかっている。

だが、今日はなんとなくただ歩いているのも暇になったので、少し遊んでやろうかと思い、俺は後ろからは見えないくらい小さな笑みを浮かべると、一瞬立ち止まり、いかにもわざとらしく大きな一歩を踏み出す。

パタパタパタ――――

立ち止まる。

勿論、もう足音は聞こえない。

今度は、大きく体を伸ばすフリをしながら、一歩踏み出す。

パタパタ――

どうせストーキングをするなら、もっと気付かれない様にする気はないのだろうか……？

いや……

特に何もしてくるわけでもない様なので、わざわざ気付かれない様にする意味もないのかも知れない。

立ち止まってそんなことを考えていたら、不意に足音が近づいて来るのが分かった。

『もしかしたら後ろから刺されるかもしれない』

『何かの薬品を使って意識を失わせて、どこかに連れて行かれるのかも知れない』

足音が一歩、また一歩と近づいてくる度に、様々な可能性が脳内に次々と上げられていった。

パタパタパタ――――――――――

徐々に距離を縮めてくる。

ピタ――――

ついに真後ろに来たか……

「あの……」

何をされるのかと思っていたが、何故か声を掛けられてしまった……

「なんですか？」

そう言って振り向いた目線の先には、俺よりだいぶ身長の小さい少女が立っていた。

「あの、名前何て言うんですか？」

「水上明（みかみあきら）」

少女からの予想外の質問に一瞬戸惑ったが、わざわざ隠す必要もないと思ったので、正直に答えてやると、彼女は、こほん、と軽く咳払いをすると、突然自己紹介を始めた。

「初めまして！　綾川芽衣（あやかわめい）と言います！　年齢は１４歳で、身長は１４６ｃｍ、スリーサイズは、上から６３、５２、６６、趣味は明さんをストーキングすることです！」

全てを一息で言い終えると、頭を深々と下げた。

……というかコイツ、俺と年齢が一つしか違わない上に、趣味がストーキングだとハッキリ言いやがった。

「んで、俺をストーキングすんのが大好きなロリストーカーさんが、なんで突然俺の前に出てきたんだ？」

先ほどの少女……もとい芽衣のハッキリとした口調に答える様に、俺も思ったことをハッキリと言い放つ。

そうするのが一番な気がしたからだ。

「何言ってるんですか！？　全然ロリなんかじゃないですよぅ……」

そういう彼女の容姿は、完全にロリだった。

「じゃなくて……、ストーキングだけじゃ我慢出来なくなっちゃいまして……」

「ならどうするつもりなんだ？」

「好きになってもらいます！」

意味不明なことばかりぬかす（ロリ）小娘だと思った。

「俺のことストーカーしてた奴を好きになるとでも思うか？」

「だから『好きになってもらう』って言ったじゃないですか♪」

やっとこいつの目的が理解出来てきた気がする。

つまり、なんらかの方法……まぁ、主に洗脳やらなんやらを施して、好きになってもらうつもりなのだろう。

「どんな施設で洗脳するんだ？　滅菌室みてーな真っ白な部屋か？　それとも完全防音ガラスの張った色々と危ない機具の置いた地下

室か？　場所によっては付いてってやらんでもないぞ？」

そんな冗談めいたことを何と無く言うと、芽衣は不意に満面の笑みを浮かべて抱きついて来た。

俺はやはり何と無くで、腰辺りに纏わり着くツインテな頭を撫でてやると、ころころと喉を鳴らし始める。

「痛いのは一瞬ですから、安心してくださいね♪」

「はっ……！！！！」

俺は闇に堕ちた。

最近のストーカーってこんなもんなのか？（後書き）

監禁恋愛　第一部『最近のストーカーってこんなもんなのか？』どうでしたでしょうか？
凄まじい耳レイプならぬ、眼レイプに耐えて頂いたことを深く感謝します。
色々と忙しい時期なので、次の更新がいつになってしまうかは不明瞭ではありますが、勿論まだお話は続きます！
では、また会う日まで・・・

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2872j/

監禁恋愛

2010年10月16日06時27分発行